



東園寺檀信徒名簿更新届および墓地継承届について

平成26年6月15日付け、東園寺檀信徒名簿更新届・墓地継承届の書類について、説明させていただきます。

私たちを取り巻く社会や環境の変化、少子高齢化が加速する中、墓地の無縁化は寺院にとって深刻な問題になっています。墓地の無縁化対策の方法としては、檀信徒の家庭環境を事前に把握することが重要です。その為には、従来の世帯主だけの檀信徒名簿だけでなく、家族を含めた檀信徒名簿の作成が必要になりました。寺院によっては、20年ほど前から、書類を作成している所もあります。東園寺においても、2、3年ほど前から、家族葬等が増え、また、将来無縁になるだろうと思われる家庭があります。そこで、平成26年6月1日に責任役員会を開き檀信徒名簿更新届の書類作成が決定しました。檀信徒名簿や墓地継承届の様式は寺院によって異なります。今回作成した書類は、皆様に送付する前に、神奈川教区や法類総代さんに承認いただいたものです。また、墓地継承届の書類については、平成5年に新墓地を分譲してから20年以上、それ以前の永代墓地使用権の契約については、契約者が他界されている現状もあり、それらの墓地継承届についても手続きをしていただくこととなりました。

この度の書類は、東園寺にとりまして重要な書類です。上記趣旨をご理解の上、提出されていない方は、お盆の墓参時に届けてください。郵送でも結構です。また、書類を紛失した方は、その旨をお話いただければ、書類をお渡しできますのでお気軽にご相談ください。

観音堂再建基金寄附者芳名

平成26年6月吉日	大森義賢殿	10万円
平成26年6月末日までの積金		866万円

～仏参金納入口座のお知らせ～

郵便口座

記号10800 番号6654231

口座名 トウエンジ 又は 東園寺

※キャッシュカードでの振り込みですと、手数料が掛かりません。

山梨中央銀行

忍野支店 口座 普通

121086 東園寺

◎ご家族の名前で振り込んだ場合、家の確認ができないことがありますので、必ず戸主がわかるようにしてください。

お盆は本堂にお参りしましょう。

東園寺は、昔からお盆の期間中

(8月7日～16日)本堂に地獄絵図の掛け軸を掛けています。東園寺の地獄絵図は、年号などが無い為に、どのくらい前のものか分かりませんが、かなり古いものです。地獄絵図は、怖いものではなく、人が生きるための戒めとして、作られたものです。是非、お参りください。

光陰矢の如しとか、年々一年が短く感じるこの頃です。檀信徒の皆様にはご健勝の事とお喜び申し上げます。近年は、異常気象のため、世界的に過去にないような災害が続いております。天台宗のご開祖、伝教大師最澄上人は「生命」「奉仕」「共生」を、日常生活を送る上での大切な教義としました。特に、自然との共生をお唱え続けました。しかし、近代は西欧の人間至上主義により、大切な自然を破壊し続けてきました。愚かな人間に対して、地球が鉄槌を与えているのかもしれない。ここ数年、寺の真意を受け入れていただけなくて、話し合う裡に、時間だけがどんどん過ぎていきました。その間檀信徒の皆様にはご心労をお掛けしました。当方、真摯に取り組んでいきますので、今暫く温かくお見守り下さい。この度のお寺よりの書類も、今後の寺院運営に必要なものです。どうかご理解の上ご提出をお願い申し上げます。

合掌

※平成26年新盆一覧は掲示板に掲示してあります。ご覧下さい。

東円寺子育て地蔵尊大祭

～4月24日～



奉納のぼり幡がはためく参道。

恒例の子育て地蔵尊大祭が、今年も盛大に行われました。晴天に恵まれ、東円寺桜も満開の中、開運厄除け護摩祈祷や、オカリナ演奏会、バザーを行うことができました。たくさんの方に奉納していただいた、「のぼり幡」がはためく、賑やかなお祭りになりました。

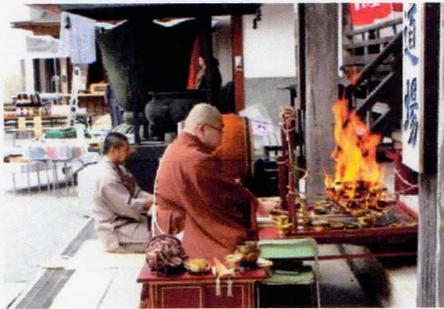
東円寺の子育て地蔵尊は正徳元年（1711年）に忍草の善男善女により奉納された石像です。三百年以上忍草の子供達を見守ってきた歴史があります。来年も多くの檀家の皆様がお参りされることを願っております。

バザーの売り上げは次の団体に寄付しました。

忍野村図書館 45,500円

インド子供基金 10,000円

ご協力ありがとうございました。



開運厄除け護摩祈祷の様子



寺庭のつぶやき

檀信徒の皆様には、平素より東円寺に対しまして、温かなご支援ありがとうございます。平成26年お盆号では、寺庭婦人がお寺で、どのような立場で仕事をしているのかご紹介したいと思います。ご紹介するために、様々な資料を調べてみますと、天台ジャーナルという天台宗本庁の広報誌、平成16年第10号に「仏と生きる」という新シリーズがあり、天台宗寺庭婦人の記事がありましたので紹介しながら、私の日々の活動をお話しさせていただきます。

『仏と生きるのは、僧侶だけとは限らない。人生の重荷を背負った人や、一見幸せそうに見えても、人には知られないように仏と生きている人は多い。あるいは仏から逃げて、逃げて逃げ切れない人や、それとは知らずに仏の手の中で生きている人もいる。寺庭婦人とは、家庭婦人に対して寺の婦人、要するに寺の奥さんのことである。他宗派では、坊守さん、大黒さん、裏方さんなどと呼ばれている。どの呼び方にも、住職を支えて陰で頑張るというイメージが強いが、実態は最高実力者の場合が多い。そのことは、家庭を持っている男性諸君なら容易に推察のつく所であろう。特に寺では、法儀以外は、檀家・信者の相談、接待、交際という基幹部分は「奥さん」や「若奥さん」が受け持っている。寺庭婦人が果たす役割は絶大である。』と書かれています。昭和42年に群馬教区に寺庭婦人会を立ち上げた大沢和世さんとの対談形式の記事です。ご興味のある方は、インターネットで「天台ジャーナル第10号」と検索していただくとこの記事をご覧ください。

天台宗は、明治の廃仏毀釈以降妻帯（僧侶の結婚）が許されました。妻帯以前は寺には、住職の他に住職を補佐する小僧さんがいました。明治以前は、東円寺にも小僧さん、もしくは寺男（寺の雑用をする人）が何人もいました。寺の雑用とは、住職の食事の支度や身の回りの世話、住職不在の時の基幹部分を受け持つてきました。妻帯を許されたことによってその仕事は寺庭婦人になりました。一般家庭と大きく違うのは、この部分であると思います。現代風に言うならば、住職のスケジュールを管理し、法儀に専念できるよう配慮する秘書と言えるかもしれません。私は、天台寺庭婦人という職業に誇りを持っています。日々、天台宗の教えを学び、伝教大師様の教えを実践していきたいと思っています。それが、寺院隆昌に繋がると信じているからです。今後とも、東円寺の更なる発展のため精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

東円寺先祖供養団参報告

平成26年6月11日から13日の2泊3日で先祖供養団参に行っていました。旅程1日目は、比叡山延暦寺阿弥陀堂にて先祖供養をしました。比叡山には、延暦寺というお寺はありません。天台宗の総本山延暦寺は総称です。比叡山は大きく3つのエリアに分かれています。伝教大師様が建立した根本中堂や先祖供養をする阿弥陀堂がある東塔。伝教大師様のお墓がある浄土院や、同じ形をしたお堂が廊下によって繋がっている、弁慶が両堂をつなぐ廊下に肩を入れて担いだと言われるにない堂がある西塔。横川中堂や元三大師堂のある横川です。阿弥陀堂での先祖供養は、御導師様の読経に感動しました。毎年先祖供養をしていただいておりますが、今回ほど作法や朗々とした読経が心に沁みだしたことはありませんでした。阿弥陀堂での先祖供養に参加された方々は、亡くなられた大切な方々と会うことができるような気がすると言います。ご主人が来ているような、お子さんが来られているような、ご両親が来られているような、今年の法要は、それを痛感した供養でした。住職は、葬儀を終えて、予定通りの時間に新幹線へ乗り、無事、夕食に間に合いました。団参2日目は、早朝6時30分から根本中堂で毎日勤められている朝のお勤めに参加させていただきます。朝のお勤め後は、伝教大師様の御廟（お墓）にお参りに行きます。これも、東円寺の先祖供養団参には欠かせないものです。お参りが終わると、皆さん清々しい顔をされています。今年は、京都をゆっくり散策するコースにしましたので、比叡山を後にして、嵐山に行きトロッコ電車に乗りました。その後、三十三間堂を拝観させていただきました。三十三間堂には、法嗣の兄が勤めています。内陣に入れていただき、様々な説明を受けました。夜は、日本の伝統文化を学ぶということで、舞妓さんと呼んで宴会をさせていただきました。雅やかなその姿は、日本伝統そのままです。舞妓さんの豆知識を教えてください、楽しいひと時を過ごすことができました。3日目は、宇治にあります平等院鳳凰堂に行きました。2012年9月から修復工事をしていました。今年4月から内部拝観が始まりました。修復された平等院は圧巻でした。

東円寺の先祖供養団参は、一般的な旅行とは違います。大きく違うのは、ご先祖様にお会いできるということです。天台宗の総本山である比叡山は、そのような気持ちにさせてくれます。比叡山では、毎年先祖供養に訪れる東円寺の皆様へ、優遇した対応をしてくださっています。旅行会社も、住職の教え子なので、宿泊先や食事の手配にはとても気を配ってくれています。来年は6月を予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



平等院鳳凰堂にて

☆次回団参予定☆

平成27年
6月15日(月)~17日(水)

比叡山先祖供養団参

『城崎温泉湯めぐりと天橋立』の旅

※詳しくは東円寺便り春彼岸号にてお知らせいたします。どうぞお楽しみに！！

~ご詠歌に参加しませんか~

3月~12月 第2・第4月曜日
午後2時~3時

ご詠歌の楽しみは、練習の後のお茶飲みです。住職を囲んで、雑談会をしています。お友達同志誘い合っただけのご参加をお待ちしております。

八海・新名庄川清掃参加者募集

清掃活動を続けて、8年目に入りました。

今年も毎月8日に清掃・除草活動を行います。天候などで変更する場合は事前に連絡させていただきます。多くの皆様のご理解とご協力をお願いします。



平成26年10月3日

比叡山千日回峰行者、上原行照大阿闍梨様が東円寺にご来駕されます。

この度、富士山世界文化遺産を祝い、比叡山にて千日回峰行を満行されました、上原行照大阿闍梨様が、東円寺にて護摩を厳修されます。東円寺の目黄不動尊は富士山一合目の鈴原大日堂に祀られていました。明治の廃仏毀釈の時、不動尊の不思議なご縁により東円寺に遷座されました。数百年間、富士登山行者の安全を守り続けたお不動様は、東円寺遷座以後、140余年間に亘り、忍草の人々の平安や、五穀豊穡をお祈りされてきました。昨年の6月22日、富士山が世界文化遺産に登録されました。以後、多くの記念行事が行われています。信仰の対象といわれている富士山ですが、宗教的な記念行事はあまりありません。上原阿闍梨様と、東円寺とは不思議なご縁があります。また、東円寺のお不動様が富士山と深いご縁があることを知り、この度の記念行事となりました。千日回峰行満願大阿闍梨様がご来駕され、護摩を厳修されることは、あまり例がなく、まことに、光栄なことです。多くの皆様のご参拝をお願い申し上げます。皆様には改めて、ご案内いたしますが取り急ぎご連絡いたします。

上原行照師略歴	昭和34年	群馬県前橋市に生まれ、その後15歳で得度、仏門に入る
	昭和60年	比叡山に3年籠山
	昭和63年	千日回峰行に出峰
	平成6年	千日回峰行を満行
		天正年間(1573年)以降48人目の北嶺大行満大阿闍梨となる
	平成18年	滋賀県の比叡山延暦寺支院 別願道場 伊崎寺住職拜命現在に至る

●千日回峰行とは・・・比叡山に伝わる修行のひとつで、比叡山の山々の定められた260に及び箇所を拝みながら巡拝する修行です。行が途中で挫折するときは自ら命を絶つという厳しさを示す『浄衣(じょうえ)』という白装束をまとい、12年間掛けて千日間巡拝する行です。1日30扣の行程を600日間、9日間の断食・断水・不眠・不臥の「堂入り」1日80扣を200日間、最後に30扣を100日行じて、初めて満行となります。このように、山々を拝みながら巡ることにより、この世のものすべてが仏になれる要素を持っているという『悉有仏性(しつうぶっしょう)』の思想を見いだす、とても厳しい荒行です。

●大行満大阿闍梨とは・・・千日回峰行を満行した人の尊称。生身の不動明王として崇められます。

～夏に向けて～

梅雨も去り、本格的に夏らしくなってきました今日この頃、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。さて、今回は夏の防災について簡単にお話させていただきます。

『防災』とは、自助・共助・公助の三つの行為により災害を未然に防ぐ目的をもって行われる取り組みです。厳密には、もし災害が起こっても、いかにそれを最小限に抑えるかという『減災』を意味します。

- 自助・・・身の周りでの備え
- 共助・・・皆さんの協力
- 公助・・・政府の対応

近年での夏の主な災害として、温暖化による異常気象が挙げられます。大雨や洪水など自然災害は未然に防ぐことは難しく、現代において大雨などのおおまかな予測はできても、いつどこで起こるか正確にはわからないのが現状です。防ぎようのない自然災害と隣り合わせの生活のなかで生きていることを十分に理解し、まずは家族で『自助・共助・公助』について話し合ってください、身の回りを備えることが大切になります。皆さん一人一人が防災の意識を高め、これからの生活に役立てていただけたら幸いです。